

ワークショップ

「グローバルバリューチェーンでの温室効果ガスの削減貢献量の算定」

—Workshop on “Quantifying GHG emission reductions of goods or services through Global Value Chain”

日時：2018年12月5日（水）16:30～19:30

会場：TKP 神田駅前ビジネスセンター カンファレンスルーム 5C

<http://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/bc-kanda-ekimae/access/>

主催：日本LCA学会 環境負荷削減貢献量評価手法研究会

共催：LCA日本フォーラム

参加者：招待者限定

- ・ ISO/TC207/SC5/WG12 と TG1 専門家（約20名）
- ・ 日本LCA学会環境負荷削減貢献量評価手法研究会 メンバー（約10名）
- ・ 経済産業省、経団連等関係者（若干名）

開催趣旨：

ライフサイクルアセスメント（LCA）の国際標準規格である ISO-14040 と ISO-14044 の改訂を議論する ISO/TC207/SC5/WG12 と TG1 の合同委員会が2018年12月4日（火）から12月6日（木）まで東京で開催されることになった。LCA の分野で国際的に活躍している約20名の専門家が来日する。この機会を捉えて、温室効果ガスの削減貢献量の算定手法についての国際ワークショップを開催する。

本ワークショップでは、経済産業省が2018年3月に発行した「グローバルバリューチェーンでの温室効果ガスの削減貢献量の算定ガイドライン」と、内外の産業界の活動を紹介し、今後の活動のあり方について議論する。

温室効果ガスの排出削減貢献量の算定は、本質的に製品比較であること、また、実際の削減量ではなく仮想的な量であることから、LCA の関係者には算定を躊躇する専門家もいる。本講演・討論会では、それらに対する考え方も議論する。

<プログラム>

16:30-18:00 Session 1: 各国の取り組み

- ・ グローバル・バリューチェーンを通じた削減貢献の見える化について

経済産業省産業技術環境局環境経済室（交渉中）

- ・ 低炭素社会の構築に向けた取り組み 一般社団法人日本経済団体連合会 谷川 喜祥
- ・ フランスの活動 Président of Solinnen: Philippe Osset
- ・ BASF の活動 BASF: Peter Saling
- ・ Avoided GHG emissions by increasing the cross-sectional area of electrical Conductors ISO-expert from Switzerland: Kurt Buxmann
- ・ その他：参加者からの発表を募集する。

18:00-19:30 Session 2: 今後のあり方

- ・ 参加者による討論（軽食、ビール・ソフトドリンク付き）

Short Presentation

- ・ critical aspects of the avoided emission concept (TU Berlin) Matthias Finkebeiner

19:30 閉会